

課題1 次の文章を読んで、あとの(1)から(5)に答えましょう。

ひとはじぶんが誰であるかを、じぶんは何をしてきたか、じぶんにかできないことは何かというふうに問うてしまう。いまのままではいたたまれなくて、あるいはいまのじぶんに満足できなくて、つい、どうしたらいいか、何をしたらいいかと考え込んでしまう。

一時期、「自分探し」という言葉が流行った。いまなら「自己実現」というところか。だが、いまのじぶんがそのまま定着してしまっていていいと思うひとはいないだろう。いまのこんなじぶんから抜け出たいとは思っても。ということは、「自分探し」や「自己実現」ということでひとが求めているのは、理想的なじぶんのイメージを探したり、それになりきりたいということだ。では、なぜ目標に近づくとか理想を求めるといふ言い方をしないで「自己」実現というのか。

ここには巧妙なすりかえがある。現にそうでないじぶん、つまり理想のじぶんのイメージを、じぶんの素質、それもまだ実現されていない素質と考え、それを実現することを妨げるような状況にじぶんは置かれている(きた)と考えてしまうのである。じぶんがいまこんなに塞がった状況にあるのは、(じぶんのせいではなく)過去のあのトラウマ(外傷)のせいだとして、アダルト・チルドレンという言葉にすっと乗って納得してしまふ、一部の若者たちの心境に似ている。その傷との格闘のなかでこそ、へじぶんはかたちづくられるものなのに。

たしかにひとは老いても、いや老いの入口においてこそ、じぶんの存在の意味について考えはじめる。勤労者、夫(もしくは妻)・父・子(もしくは嫁)といった役割から解かれ、ひとりのむきだしのへ個として、じぶんと対面しなければならなくなるからだ。社会のなかに住むひとりの役割をもった存在として、しなければならぬこと、させられることにかまけられているあいだはまだいい。そういうごまかしがきかなくなるのが老いというものだ。もっとも、ほんとうに老いばればそんなこと、気にもせず飄々としていられるようになるかもしれないが。

ある意味で、老いというのは、あれができなくなった、これもできなくなったと、いろいろに思い知らされること、どんどん増えてゆく経験である。ふと気がつけば、新聞を眼から遠ざけている、徹夜ができなくなった、電車をひとつくらい遅らせてもいいやと思うようになる……。が、そのことで、人生を「できる」ことからでなく、「できなかった」ことから見据えることができるようになる。そして「A」「B」ことよりも、「A」「B」ことの意味にふれようとははじめる。

(鷲田清一著『新編 普通をだれも教えてくれない』から)

*注 巧妙な…非常に巧みであること。

(1) 次の第一群、第二群それぞれの漢字カードを一枚ずつ組み合わせて漢字を四つ作りましょう。カードは何回使ってもかまいません。

第一群	反
第二群	日
	青
	月
	良
	し

明	返	朗	晴
---	---	---	---

※

(2) 「ここには」とありますが、「ここ」が指す内容を一文にまとめて、四十字以内で書きましょう。(「、」や「。」も一字に数えます。)

目標に近づくとか理想を求めると言わず、
自己実現と言いつつ換えているところ。

40字 ※

(3) 「巧妙なすりかえがある」と筆者が言うのはなぜですか。理由を「」ではなく「から。」という形で一文にまとめて、七十五字以内で書きましょう。(「、」や「。」も一字に数えます。)

目標に近づけないのは、周囲の力の不足のせい
だと考えるのではなく、周囲の環境のせい
だと責任を自分に押しつけているから。

75字 40字 ※

(4) 「古い」をきっかけにしてわたしたちは何をしはじめるかと筆者は述べていますか。「」ははじめる。」で終わるように一文にまとめて、三十字以内で書きましょう。(「、」や「。」も一字に数えます。)

ひとりのむきだしへの個性として、じぶんと
対面しはじめる。

30字 ※

(5) 本文中の「A」・「B」に入る適切な言葉の組み合わせを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えましょう。

- ア A 考える B する
- イ A する B ある
- ウ A できる B 探す
- エ A 老いる B できる

イ

※

課題2

ひろしさんたちは、クラスで「ボランティア活動から得られるもの」というテーマで話し合いをしました。下の図は、そのときクラスで出た意見をまとめたものです。

あなたはボランティア活動からどんなことが得られると思いますか。具体的に一つあげて、あなたがそれを選んだ理由を、自分の体験を入れて二〇〇字以内で書きましょう。(ボランティア活動から得られるものは、ひろしさんのクラスで出た意見以外でもかまいません。解答らん「」や「。」も一字に数えます。段落分けはしなくてよろしい。一マス目から書き始めましょう。)

テーマ
ボランティア活動から得られるもの

- ・助け合いの精神
- ・思いやり
- ・けんきよさ
- ・がまん強さ
- ・責任感

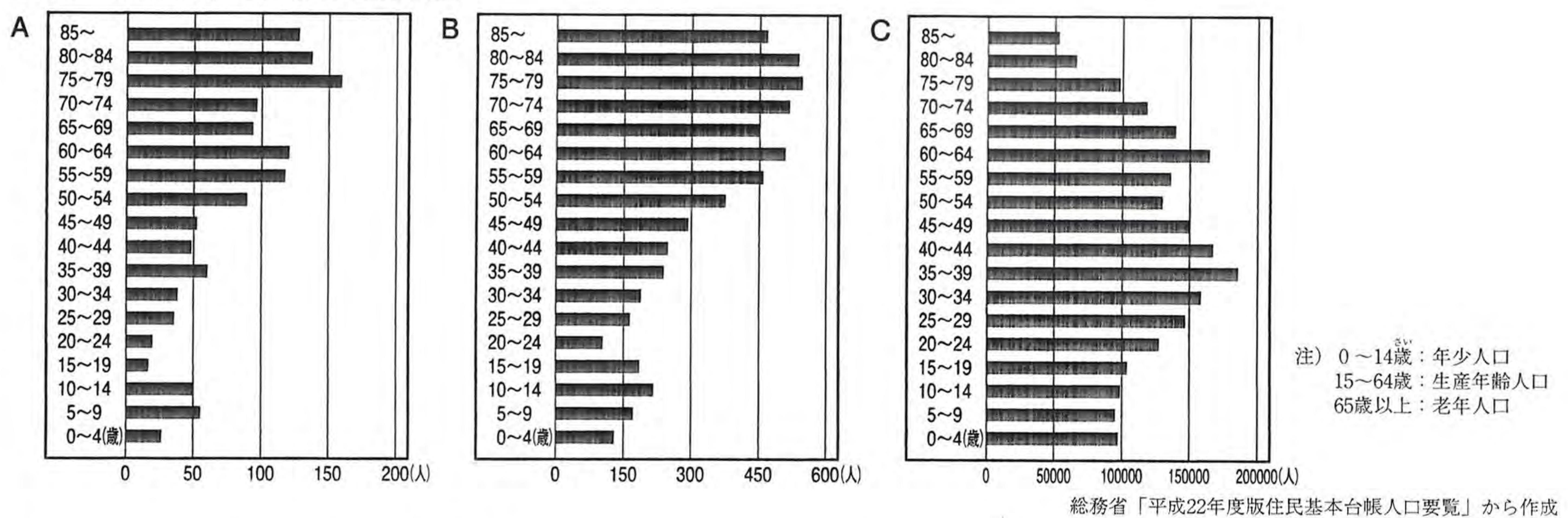
私は「がまん強さ」が得られると思います。
今年の夏、私は近所の保育園にボランティア
に行きました。た。やんちや子や、恥ずか
屋の子など、性格はいろいろで、たが、ど
にも良さがありました。その子の良さが
を引出し、成長を手助けするに、その子が
困っている時にすぐ手を助けるのは、な
つと見守ることが大切で、ボランティア
を通じて相手のペースに合わせて思いま
す。

200字 100字

※

課題3 次の資料を見て、あとの(1)から(3)に答えましょう。

資料1 市町村A, B, Cの年齢別人口



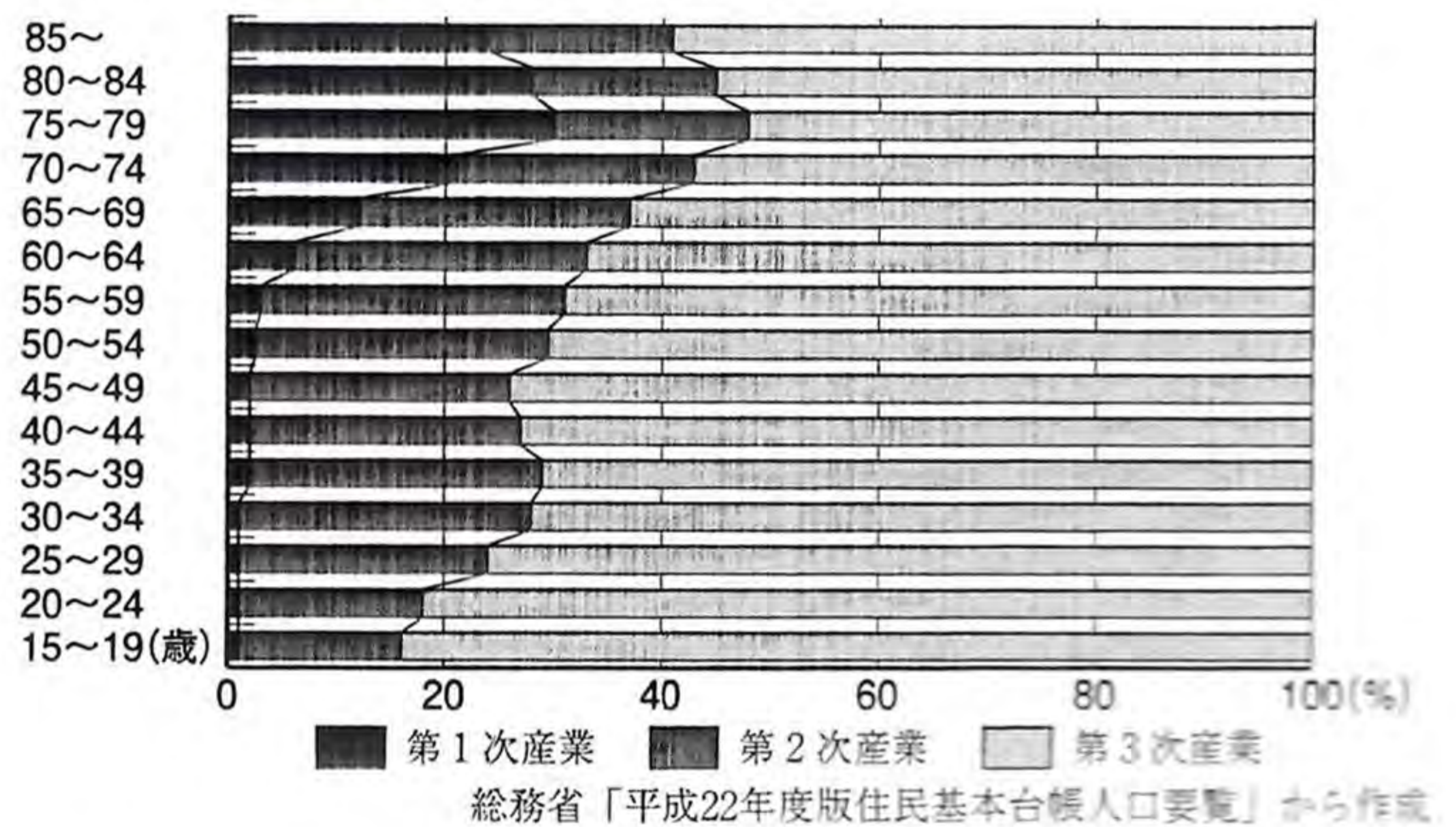
資料2 市町村A, B, Cの産業別人口割合

	ア	イ	ウ
第1次産業	0.3%	18.4%	21.6%
第2次産業	24.3%	24.6%	24.2%
第3次産業	75.4%	57.0%	54.2%

注) 第1次産業 (農業・林業など)
第2次産業 (鉱業・製造業など)
第3次産業 (商業・サービス業など)

総務省「平成22年度版住民基本台帳人口要覧」から作成

資料3 全国の年齢別就業者割合



(1) 資料1を見ると、A, BとCの^{ちが}違いがわかります。AとBに共通する特ちょうを、Cと比べて2つ書きましょう。ただし、2つの特ちょうはそれぞれ異なる視点から書きましょう。

1つめ	Cと比べて、老年人口の割合が高い。
2つめ	Cと比べて、総人口が少ない。

※

(2) 資料2の表中ア~ウのうち、Cはどれにあてはまるか記号で答えましょう。また、そのように考えた理由を資料1, 資料2, 資料3の全てを使って答えましょう。

記号	ア
理由	資料1から、CはAやBに比べて老年人口の割合が低いことがわかる。資料3から、第1次産業についている人の割合は生産年齢人口に比べて老年人口が高いことがわかる。資料2をみると、アよりイやウの方が第1次産業の割合が高いので、イとウが老年人口の割合の高いAかBのいずれかにあてはまり、老年人口の割合が低いCはアにあてはまると考えられる。

※

(3) AやBのような地域では、地元の商店やスーパーマーケットなどが閉店したため、その地域の住民が生活用品などの購入に困るとい問題が起こっています。この問題を解決するために、市町村または企業はどのような取り組みをしたらよいと思いますか、あなたの考えを書きましょう。

(解答例1) 住民がインターネットで商品を商店やスーパーマーケットに注文できるようにして、店員が住民の家まで商品を配達する。

(解答例2) 市町村が曜日や時間を決めて買い物タクシーや乗り合いバスを運行し、買い物に困っている人を店まで運ぶ。

※